

(Anacardiaceae)

12. *Sideroxylon glomeratum* Vlks. 533 Isotype
(Sapotaceae)

13. *Timonius albus* Vlks. (Rubiaceae) 344 Isosyntype

14. *Vavaea pauciflora* Vlks. (Meliaceae) 336 Isotype

We wish to thank Director, Botanical Survey of India for all facilities.
(Central National Herbarium Botanic Garden P.O., Howrah-3, India.)

○高等植物分布資料 (87) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (87)

○コウライシバ *Zoysia tenuifolia* Willd. 1967年の夏、東京大学教授本間啓博士は、コウライシバなどの調査のため、宍岐島にこられた。適当な海岸をえらんで調査されたが、この際は自生地の発見はできなかった。そこでわたくしはこれを機会に、引き続いて調査を進めたいと考え、友人にも話して注意してもらった。1972年になって、友人の一人浅野次郎氏から、石田町海岸に変わった種類の芝地をみつけたと連絡を受けた。その後調査したが、現地は北に開けた荒海の海岸で、芝地は急傾斜となり、底辺約50 m 高さ約30 mの三角形となって広がり、底辺は汀線に迫っている。問題の芝は頂上から約1/3と底辺部分を占め、さらに中央部に広がるシバ *Z. japonica* Steud. の中に小面積の群落となって点在している。この芝の種類はコウライシバに最もよく似ているが、確かには分らないので栽培して検討し、さらに本間啓、小山博滋両博士の同定をいたゞいて、コウライシバそのものと確定した。

コウライシバは、東南アジア、中国、台湾、琉球に分布しさらに北上して九州に達している。九州では男女群島から、五島列島をとびとびに北上し、平戸島に近い生月島（本間）まで分布することが知られていた。このたび宍岐島で新産地が発見されたので、宍岐はコウライシバの新しい分布北限地ということになる。

○アワコガネグク（一名キクタニグク）*Chrysanthemum boreale* Makino アワコガネグクは、北支・満洲・朝鮮に分布の本拠をもつ、いわゆる大陸系植物で、日本では宍岐対馬一円のほか、近畿・関東・東北の各地にそれぞれ不連続分布をしていることが知られていた。ところが近年徳島県の阿部近一氏が鯨山で、また佐賀県の文化材専門委員馬場胤義氏とその関係者は、同県の東松浦半島にそれぞれ新産地を発見された。したがって佐賀県の分布地は、九州本土で唯一の産地である。私は1969年から1974年の間に、長崎県と佐賀県境に深く入りこんでいる伊万里湾内の島々や、湾の南岸の松浦市沿岸にわたって、広く本種の新産地を発見したので報告する。1969年湾奥の福島（1町、長崎県）の植物調査中、東部白岳山頂の裸地と、北部鍋串の沿道の草地に新産地を発見した。この島ではこのあと、故緒方教育長、熊沢、松浦両氏によって